

「戦没者慰霊」高まる全国的な動き

戦没者の追悼を正す全国組織の呼びかけ

趣旨

二〇〇二年一月
我が国が、軍人軍属だけでも二百四十万人を犠牲にしたあの戦争から五十七年目になります。今や国は富み、米軍を支援しています。

一つも造っていません。以上のような実情を正すために、私達は次の四項目を政府、政界などに求める運動の全国的なネットワークが望ましいと考えます。賛同して頂けるかどうか、どのような組織、運営にすべきか、など広範なご意見をお寄せいただきたくお願いします。

国に対する主張

○戦没者遺骨収集体制の強化と継続。
○収集遺骨の身元調査のための全数DNA分析と、遺族への検体(爪

など)提出の呼びかけ。
○遺族に返還できない遺骨を個別埋葬する国立墓地の造営。
○戦没者名簿データベース化

呼びかけ人

- 千一五〇〇五三 東京都渋谷区代々木南十字星会 会長 青柳 幸司
- 千〇三三三〇三七五 〇三三三三〇三七五 岩手県丹沢郡衣川村 陣場下四一 太平洋戦史館 専務理事
- 千〇九四一三八四三八九 本町三一六 福岡県久留米市
- 千八〇〇〇二二 東京都武蔵野市桜堤 一三二〇一六〇六 沖縄真嘉比壕戦死者遺族の会代表 秋山格之助
- 千〇四二五三三三六六一

門司港にメモリアルを

門司区遺族連合会 会長 大津文雄

兵隊達は階上甲板に鈴なりにむらがつてもものも云わず、次第に遠ざかって行く故国の港をむろん涙をためて眺めながら誰に向かってもなく、もうすっかり見えなくなつた人々に対してではなく遠ざかって行く、故国の山河に向つてであったが、すでに力の抜けた手振り、日の丸の旗を振りながらいつまでも甲板から降りようとはしなかった。……これは火野葦平の「土と兵隊」の門司港出港の一節です。こうして門司港から二百万ともいわれる将兵が戦地へ向い、比島で五十万、ビルマ(現

遺族会も署名活動

乗船前の何日間を門司の旅館や民家に宿泊しておられます。いまの門司港はレトロな雰囲気で、また最近は一号岸壁跡に予算百億で「門司港地区拠点文化施設

せん。北九州市長末吉興一殿に門司区遺族連合会長名で「小さくともいい、なんとか一基の記念碑を上申書を出しています。行政の動きは鈍く一向に

お多忙中恐縮ですが趣旨にお賛同のうえ、お署名を頂きたくお願いいたします。

昨年十一月二十七日の毎日新聞、同月二十九日の読売新聞に直接この運動をしておられる八十才の方二人の投稿が掲載され、大きな反響を呼んでおります。

門司区遺族会としても是非応援したいと会員の皆さんの署名を集めることにしました。

戦没者を慰霊し平和を守る会会則

- 一、目的
本会は、第二次世界大戦において、国のために亡くなられた戦没者を慰霊し、我が国が戦争の愚を断ち、平和な国際社会を造りに貢献する事を目的として設立する。
- 二、事業
本会は次の事業を行う。
(一) 戦没者の慰霊巡拝
(二) 慰霊碑の建立
(三) 慰霊碑の維持管理
(四) 戦没者遺留品の返還
(五) 戦没者の遺骨収集の推進
(六) 遺族及び遺骨のDNA鑑定との推進と支援
(七) 第二次世界大戦関係の資料収集
(八) 慰霊地域におけるボランティア活動
(九) 平和教育の推進と運動への参加
- 三、役員
本会に次の役員を置く。
(一) 理事長 一名
(二) 副理事長 若干名
(三) 理事 若干名
(四) 顧問 若干名
(五) 監事 一名
(六) 事務局 局長 一名
- 四、附則
本会則は二〇〇一年(平成十三年)八月一日制定する。
- 五、事務局
本会の事務局は福岡県久留米市本町三一六塩川総合企画株式会社内に置く。
- 六、運営費
本会の運営は、会費及び寄付金その他によって行う。
- 七、会費
会費は年間、法人一万円、個人三千円とする。
- 八、役員
本会には二〇〇一年(平成十三年)八月一日制定する。

役員

- 理事長 永田 勝美 (戦友) 俳人
- 副理事長 坂本茂太郎 (戦友) 僧侶
- 同 塩川 正隆 遺族・会社社長
- 理事 西土 純一 大学教授
- 理事 川副 正敏 弁護士
- 理事 高田 俊秀 戦友
- 理事 津留崎 恂 戦友
- 理事 高木 一希 遺族・大学職員
- 監事 矢野 佳運 大学事務部長
- 事務局 局長 高木 一希 遺族・大学職員

お知らせ

左記の要領でフィリピン・レイテ島慰霊の旅を行ないます。
期日 平成十四年六月三十日(日)七月四日(休) 四泊五日
参加費 十五万円
日程
六月三十日(日) 福岡空港→マニラ(泊)
七月一日(月) マニラ→レイテ島 (タクロバン)
慰霊巡拝(リモン峠、カンギボット山) オルモック泊
七月二日(火) 日比合同慰霊祭(ピリヤバ、終了後慰霊巡拝) マリア親音、東京碑、マッカーサー公園、タクロバン泊
七月三日(水) タクロバン→マニラ、到着後慰霊巡拝「旧日本海軍要塞(イントロムロス) モンテンルパ、ショッピング」マニラ泊
七月四日(木) マニラ→福岡空港、帰国
申込み締め切り 平成十四年四月三十日(火)まで
希望者は電話またはFAXで当会まで

日の丸遺族の元へ

昨年十一月、鹿児島県知覧町の「知覧特攻平和会館」を訪ねた。ここを訪れるのは二回目であったが、国のために犠牲になつた千名を超える若者の軍服姿に涙が止まらなかつた。

案内の順路に従い資料などを閲覧していたが、ふと気付くと、私の目の前に日の丸が壁に掛けてあり、持ち主(遺族)を探してあるとの事であった。

この日の丸は、平成九年十月アメリカ留学中の宮崎県高原町の塩月優子様のお嬢さまの依頼で展示されることになったものであった。

日の丸持ち主探し

当会には、戦友の方が戦場から持ち帰った遺留品や、遺骨収集の際に現地で預かった遺留品などが数多くある。

その中に、川口時雄氏の日の丸がある。(写真)この日の丸は、アメリカ・ケンタッキー州在住のボック・真由美さんよ

原稿募集

当会では「平和の灯」第二号に掲載する、原稿を募集しております。戦争に対する思いや当会への要望など投稿頂ければ幸いです。
八月発行予定です

